

1	公開授業実施日時	2017年9月29日（金）13:55～14:40
2	場所	京都教育大学附属桃山小学校 3年1組教室
3	対象	3年1組（小学校3年生）35名
4	授業者	井上美鈴
5	島名	グローバル・ヒストリー
6	単元名	場面のうつりかわりをとらえて、感想をまとめよう 「ちいちゃんのかげおくり」
7	関連する教科・領域	国語科
8	単元の目標・ねらい	場面の変わり方に注意しながら読み、人物の行動、情景、会話などの表現に着目して読むことができる。 感想の内容や書き方を比較し、考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。 細かい点に注意しながら読み、場面をまとめたり、文を引用したりして感想を書くことができる。
9	グローバル・スタディーズとしての目標・ねらい	・戦争文学を読むことを通して、戦争のイメージをふくらませている。物語を読んで、多様な読みがあることを知る。 ・日常生活のさまざまな事象が世界とつながっていることを理解することができる。
10	単元の評価規準【教科・領域として】	（関心・意欲・態度） ・場面の移り変わりに着目して読み、進んで感想を書こうとしている。（読むこと） ・場面の移り変わりに注目し、それぞれの場面の様子を想像しながら読んでいる ・本文を引用したり、まとめたりして、文章の叙述に基づき、感想文を書いている。 ・感想を交流する中で、一人一人の感じ方の違いに気づいている。 ・他の戦争文学を合わせて読むことで、作品の主題についてより深く読んでいる。 （伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項） ・作品中の多様な表現や感想を表すのに適切な言葉があることに気づいている。
11	単元の評価規準【グローバル・スタディーズとして】	・戦争文学を読むことを通して、「戦争」ということのイメージをふくらませている。 ・根拠を踏まえて意見を持ち、他者と交流することによって、感じ方の違いに気づいている。

12	単元計画	<p>全11時間</p> <p>第1次 全文を読み、読みのめあてを作る。（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争について知っていることを書きだす。 ・新出語句、漢字を確認しながら全文を読み、おおまかな話の流れをつかむ。 ・感想を書き、読みのめあてを持つ。 <p>第2次 主人公の心情の変化を元に結末について話し合う。（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠を探しながら主人公の心情曲線をまとめる。 ・四場面の最後の主人公の気持ちについて話し合う。 <p>第3次 作品の主題を考え、まとめ読みをする。（4時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦争文学の他の作品を含めて根拠をしっかりと持って戦争についてのイメージを書く。また、一番強く心に残った言葉に対して、理由を書く。
13	本時の目標	《別紙指導案を参照》
14	本時の展開	《別紙指導案を参照》
15	グローバル・スタディーズとしての特徴	戦争ということを経験した人が少なくなってきた今、お話から想像をふくらませることはとても難しい。戦争について正しく理解することは、今後の社会科でおこなうが、戦争のイメージをふくらませることはこれから生きる子どもたちに必要であると考えます。
16	授業者から一言	グローバルの視点を入れることで、他の文学作品と比べ読みをすることや、学習の最初と最後で戦争のイメージの比較をおこなった。物語文を読むということにとどまらずに、一人ひとりが今後出会っていく戦争文学について考えを深めるきっかけとなった。

研究主題

言葉や文化の違いを認め合い、さまざまな人たちとすすんで関わり合える子の育成

中学年におけるめざす子ども像

自他国の文化の違いを理解し、その多様性を認め合いながら、さまざまな人とすすんで関わりあう

1. 教科名 国語
2. 単元 場面のうつりかわりをとらえて、感想をまとめよう
3. 教材名 「ちいちゃんのかげおくり」
4. カリキュラムのねらい・教材とグローバル人材育成の接点

(1) 教材について

本教材は、子どもたちが初めて出会う戦争文学である。戦後72年が経ち、子どもたちの両親や教師も戦争を体験していない。そのため、戦争についての知識が無かったり、偏っていたりする可能性は十分考えられる。文章中に登場する「出征」「ぼうくうごう」「くうしゅうけいほう」などは、聞いたことがない子どもたちも多いだろう。本単元では、発達段階を考え、並行読書として戦争文学を多く読むことで、子どもたち自身が戦争について考えるきっかけとし、教材を読み終わった後に学習前よりも学習後の方が戦争について思いを深めているようにしたいと考える。並行読書はあまんきみこの作品である「すずかけ通り三丁目」「すずかけ写真館」「おはじきの木」を各自で読んでいく。戦争についての悲しさを感じることができる「世界一美しいぼくの村」は教師が読み聞かせを行った。最後は、戦争について考えるがあくまで文学教材を軸として考えるようにし、社会科の歴史の学習ではないことに留意して学習を進めるようにしている。

(2) 単元の評価規準

(関心・意欲・態度)

- ・場面の移り変わりに着目して読み、進んで感想を書こうとしている。

(読むこと)

- ・場面の移り変わりに注目し、それぞれの場面の様子を想像しながら読んでいく
- ・本文を引用したり、まとめたりして、文章の叙述に基づき、感想文を書いている。
- ・感想を交流する中で、一人一人の感じ方の違いに気づいている。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

- ・作品中の多様な表現や感想を表すのに適切な言葉があることに気づいている。

これらの単元目標に加え、グローバル・ヒストリーの目標として読むことの中に、「他の戦争文学を合わせて読むことで、作品の主題についてより深く読んでいく」を合わせたいと考える。

(3) 単元計画 (全11時間)

第1次 全文を読み、読みのめあてを作る。(3時間)

- ・戦争について知っていることを書きだす。
- ・新出語句、漢字を確認しながら全文を読み、おおまかな話の流れをつかむ。
- ・感想を書き、読みのめあてを持つ。

第2次 主人公の心情の変化を元に結末について話し合う (4時間)

- ・根拠を探しながら主人公の心情曲線をまとめる。
- ・四場面の最後の主人公の気持ちについて話し合う。

第3次 作品の主題を考え、まとめ読みをする(4時間)

・戦争文学の他の作品を含めて根拠をしっかりと持って戦争についてのイメージを書く。また、一番強く心に残った言葉に対して、理由を書く。

・文学教材を通して、戦争について考えたことを交流する。(本時4／4)

5. 指導について

本単元では、本校が長年国語科で大切にしてきた「一人読み」を行っている。まず、めあてに沿って一人でじっくりと文章に向き合うことで自分なりの考えや思いが生まれる。そこから、小グループの交流の中で自信を持てるようになる。そして、全体交流の中でも自分の意見を堂々と伝えることができるようになる。一人読みは、めあてである自分の中の課題意識が明確でないと成立しない。今回はそれが明確になったため、初めての一人読みであったが、集中して行うことができた。これからも人と話し合うことを楽しみ、そこから学びを得ることを経験として積むようにしていきたいと考える。

学習を進めていく中で、「ちいちゃんのかげおくり」は幸せな話であるという読みの子が一定数いた。他の子の意見が出て、その読みの子が多かったのは、これまでに悲しい終わり方をする話に出会ったことがなかったことや自然と幸せな終わり方を望んでいること、ちいちゃんが家族に会えたことを喜んでいる場面などが理由として考えられる。そういう子のために並行読書を行うことで読みを広げていきたい。

6. 本時について

・日時 平成29年9月29日(金) 第5校時(13:55～14:40)

・学年・組 3年1組 35名

・場所 3年1組教室

・本時の目標

○文学教材を通して、戦争についてのイメージをふくらませ、考えたことを交流することができる。

(話す・聞く)

・本時の展開

学習の内容と活動	指導上の留意点
1. 戦争についてのイメージを小グループで交流する。	・3人グループで交流することで、前時で考えていたことを確認し、全体交流をする構えをつくる。
2. 戦争についてのイメージを全体で交流する。 「戦争について強く思った言葉を一つ選びました。 なぜその言葉にしたのか、理由を紹介し合いました。」 →「命」「家族」「はかい」など多様な意見が出ている。	・誰がどのようなイメージを持っているか分かるようにホワイトボードにフラッシュカードで掲示をする。 ・児童間指名を使うことで、子どもたち同士で意見をつないでいけるようにする。
3. 戦争文学を読んで感じたこと、これから学んでみたいことをふりかえる。	・一人ひとりが文章でふりかえることで学びの足跡や思考の変容が見取れるようにする。

・評価○文学教材を通して、戦争についてのイメージをふくらませ、考えたことを交流することができたか。

(話す・聞く／発表・ふりかえりの記述によって評価を行う)